

| 科 目 | 必・選 | 担 当 教 員 | 学年・学科 | | 単位数 | 授 業 形 態 | | | | | | |
|---|---|----------------|-----------------|---|-----|--------------|--------|--------|---|---|---|---|
| 地域と文化 (Region & Culture [Commonwealth]) | 選 | 森川 寿 | 5 年生 電気情報工学科 | | 1 | 後期 週 2 時間 | | | | | | |
| 授業概要 | かつて「大英帝国」として栄えたイギリスとその植民地は、現在はコモンウェルス連邦という緩やかな連合体を形成し、各国独自の道を歩んでいる。この授業では、19世紀後半以降のイギリスと旧植民地からアイルランドとオーストラリアを取り上げ、その社会や文化、考え方を紹介する。 | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1．国際的視野を涵養し、階級、宗教、民族問題などを通して異文化理解を深める。 2．イギリス、アイルランド、オーストラリア三国の基本的な文化の特徴を説明できる。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 1 回の定期試験（期末）50%、授業中の発表20%、2 回のレポート10 + 20%で評価する。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | * 特定の教科書は用いません。 | | | | | | | | | | | |
| 内 容 | | | | | | 学習・教育目標 | | | | | | |
| 第 1 週 | オリエンテーション、イギリスの歴史(1) 大英帝国の光と影 | | | | | A | | | | | | |
| 第 2 週 | イギリスの歴史(2) 2 度の世界大戦と大英帝国の終焉 | | | | | A | | | | | | |
| 第 3 週 | イギリス人と紅茶：大英帝国の発展と繁栄の象徴として | | | | | A | | | | | | |
| 第 4 週 | イギリスの社会(1) 教育 | | | | | A | | | | | | |
| 第 5 週 | イギリスの社会(2) 階級 | | | | | A | | | | | | |
| 第 6 週 | イギリスの社会(3) 女性 | | | | | A | | | | | | |
| 第 7 週 | イギリスの文化(1) 演劇 | | | | | A | | | | | | |
| 第 8 週 | イギリスの文化(2) 英語 | | | | | A | | | | | | |
| 第 9 週 | アイルランド(1) 神話と伝説 ジャガイモ飢饉から移民の広がりへ | | | | | A | | | | | | |
| 第 1 0 週 | アイルランド(2) 独立から現代へ | | | | | A | | | | | | |
| 第 1 1 週 | オーストラリア(1) 歴史 | | | | | A | | | | | | |
| 第 1 2 週 | オーストラリア(2) オージー気質 | | | | | A | | | | | | |
| 第 1 3 週 | オーストラリア(3) アボリジニ | | | | | A | | | | | | |
| 第 1 4 週 | オーストラリア(4) 日本との関係 | | | | | A | | | | | | |
| 第 1 5 週 | < 学生の発表 > [後期期末試験] | | | | | | | | | | | |
| 第 1 6 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 1 7 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 1 8 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 1 9 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 0 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 1 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 2 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 3 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 4 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 5 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 6 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 7 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 8 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 9 週 | | | | | | | | | | | | |
| 第 3 0 週 | | | | | | | | | | | | |
| (特記事項) | | JABEE との 関 連 | | | | | | | | | | |
| | | JABEE | a | b | c | d1 | d2a)d) | d2b)c) | e | f | g | h |
| | | 本校の学習 ・教育目標 | A | A | C | C | C | B | B | D | C | B |

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60 点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。）

「地域と社会 (コモンウェルス)」 ガイダンス

この授業は、かつて19世紀には「日の没することのない」大英帝国として栄えて、世界中に植民地を持っていたイギリスと旧植民地を取り上げ、そこに住む人々がどのように生きてきたかを考えるものです。

イギリスは大英帝国の繁栄の陰で、貧富の差や女性の地位の低さなど、現代の日本にも通じる様々な社会問題を抱えていました。これらの問題を概括するとともに、イギリスが世界に誇る芸術としての演劇と、いまや国際共通語としての地位を確立した英語の地域的・社会的多様性を紹介します。

一方、かつての植民地は大部分が独立し、今ではイギリス本国とは「コモンウェルス連邦」という緩やかな連合体を形成しています。それぞれの国のイギリスとの関係を見ていくと、民族や宗教など、現代の世界情勢の一端が浮かんできます。ここでは、旧植民地から2つの対照的な国、アイルランドとオーストラリアを取り上げます。前者は、イギリスに征服されて屈辱的な状況から独立し、今ではコモンウェルス連邦からも脱退していますが、想像力に富んだ独自の文化を持ち、世界に移民を送り出したことで英語圏の国々にも影響を与えています。後者はイギリス本国に忠実なコモンウェルス連邦のメンバーでしたが、最近ではアジアとの関係を強めて外交上独自の道を切り開いています。文化政策的にも、白豪主義と呼ばれたかつての有色人種排除政策から多文化共生主義へと転換し、先住民のアボリジニの権利や文化の復興にも努力しています。オーストラリアは、同じ環太平洋地域の国として、日本とも重要な関係を保っていくでしょう。

各週の予定は次の通り

- 第1週 イギリスの歴史(1) 大英帝国の光と影：経済繁栄と格差社会
- 第2週 イギリスの歴史(2) 2度の世界大戦と大英帝国の終焉：経済的疲弊と植民地の独立
- 第3週 イギリス人と紅茶：領土拡大と植民地経営の象徴としての紅茶
- 第4週 イギリスの社会(1) 教育：ジェントルマン教育としてのパブリック・スクール
- 第5週 イギリスの社会(2) 階級：上流・中流・下流・・・イギリスの階級はいくつ？
- 第6週 イギリスの社会(3) 女性：「家庭の天使」からの解放
- 第7週 イギリスの文化(1) 演劇：シェイクスピアは現代作家？ & 20世紀の英国演劇
- 第8週 イギリスの文化(2) 英語：ゲルマンの部族語から国際共通語へ、多様性と今後の展望
- 第9週 アイルランド(1) 神話と伝説：想像力とユーモア歴史：イギリス支配からの独立と宗教問題
- 第10週 アイルランド(2) 移民の広がり：原因と結果
- 第11週 オーストラリア(1) 歴史：距離の暴虐、白豪主義から多文化共生主義へ
- 第12週 オーストラリア(2) オージー気質：メイトシップ、敗者の美学
- 第13週 オーストラリア(3) アボリジニ：その迫害と復権、ドリームタイム神話
- 第14週 オーストラリア(4) 日本との関係
- 第15週 まとめ：この科目の内容を基に、特定の項目について発表してもらいます。